



学校だより

「みんな花笑み」

- 「知」 主体的に考え粘り強く取り組む子を育てます。
「徳」 自分を大切にし、互いの違いを認め合える子を育てます。
「体」 心身ともにたくましく生きていく子を育てます。
「公」 まちを愛し、人とつながり、ともに創造する子を育てます。
「関」 広い視野をもち、自分の思いをのびのびと表現する子を育てます。

令和4年9月30日

横浜市立菅田の丘小学校

校長 若山 京子

10月号

[神無月 October]

叱るだけでは学ばない

校長 若山 京子



9月の上旬に5年生が三浦へ宿泊体験学習に出かけました。新型コロナの感染状況は7波の中にありましたが、十分に気を配りながら活動に取り組みました。天気にも恵まれた2日間で、予定していた活動をすべて行うことができました。時間を見て身支度をしたり、友達と確認しながら荷物を準備したり、行く前は家族と離れて泊まることに不安を感じていた子ども、帰り道はすっかり自信をつけた表情でした。海の活動では、砂浜に混ざるマイクロプラスチックを実際に見て、環境問題について考えることの大切さに気付いたり、貝殻を拾って海の生物に関心をもったり、体験することで様々なことを学習した子ども達です。今回、学習したことを子ども達どうし伝え合い、共有し、学びをみんなで広げ深めてほしいと思います。

さて、このところ学校では、子ども達にずっと指導を続けていることがあります。それはトイレの使い方です。昨年、和式を洋式にする工事が行われ、少し使いづらさは解消されたのですが、上手に使えません。ちぎれた紙が散乱していたり、きちんと流していなかったり、便座に足跡がついていたり、掃除をする用務員から毎日のように残念そうに報告があります。次の人が気持ちよく使うことができるためにも、子ども達にはその都度「こんな状態になっていましたよ。」「便器には足を乗せません。」など、声をかけています。なかなか改善はしないのですが、先日、「今日は、トイレがきれいでした。誰も使っていないのかと思ったほどです。」と、用務員からの報告があり、このうえなく嬉しい気持ちになりました。翌日はまた汚れていたのでも、上手な使い方ができる日が続くといいなと思います。

「トイレがきれいだった」という報告を聞いて、思い出したことがありました。公共施設のトイレによく見る「いつも綺麗にお使いいただきありがとうございます」という張り紙です。これは、「多くの人たちがトイレを綺麗に使おうと思って行動しているのだから、自分もきれいに使おう」という、人の行動心理に訴える効果があるのだそうです。伝える言葉を変えることは、よくない行動を抑制するために効果的な場合があるのです。子ども達が「できている」ことを褒めることも大切なのだと、あらためて思いました。

子どもたちのよくない行動をあらためたい時、学校でも家庭でも、時間に追われるなど大人である私たちの気持ちにゆとりがない場合、できていないことを「叱って」しまうことがあるのは否めません。先日、ある新聞で読んだ、臨床心理士である村中直人氏のインタビューに「叱るだけでは人は学ばない」という言葉がありました。叱ることで行動を修正する効果はあっても、叱られる相手が学んだり成長したりするという点では意味がないのだそうです。叱られる相手が行動しない理由が「できないから」なのか「しないから」なのか見極めることが大事だと、氏は言います。そのうえで、どんなサポートがあれば「できない」が「できる」に変わるのか考えることが大切だということです。

10月は学期末から学期始めと切り替わりの時です。今後も、学習活動の中で、学校生活の中で、子ども達の「できない」ことが「できる」に変わる支援として何が必要かを考え、教職員一同、温かい指導を心がけてまいります。

